

別冊
付録

標高記載で快適度がわかる!

道の駅2020全国1160駅完全ガイド

PART.3

北海道 / 東北

オートキャンパー

AUTO CAMPER

for ENJOY CAMPING CAR LIFE

毎月15日発行(毎月1回15日発行) 平成30年10月2日第三種郵便物認可 第30巻 第6号 通巻350号



2020
4月号
毎月15日発売

これから……

バンコンの

進化を続ける



永遠のオートキャンプ「メシ」
の頂点を極める Fried noodles
Tournament 2020

焼きそば トーナメント2020

達人直伝
キャンプ
虎の巻

もう
怖くない!



THE FUTURE OF VANCON

バンコンのこれから……

人気ロングセラーモデル、ピークル・フューチャーでひもとく マイナーチェンジの進化を探る

一般的なクルマは、全面刷新となるフルモデルチェンジ（FMC）と、小変更のみのマイナーチェンジ（MC）を繰り返して、より完成度を高めていく。キャンピングカーも同様に、車両サイズやレイアウト、コンセプトはそのままにFMCされるモデルもあれば、輸入車のように毎年小変更が施されるイヤーモデルもある。ではMCのみで進化を遂げているバンコンとは、どのようなモデルなのか。フューチャーを例に解説していこう。

TEXT：山口則夫 〇ピークル ☎048-927-5678 <https://vehicleweb.co.jp>



Vehicle Future

コの字型ダイネットと
アーチ形状の
パーテーションは
初代からのアイコン

※現行モデルのインテリアです

1989年 Future初代がデビュー

オーディオの充実化から誕生

ピークルがさまざまな仕様を製作していた時代に、フルオーディオモデルがきっかけとなり誕生。このころは、モデル名をつけた車両は少なかったが、“Future”というステッ

カーを車体に張ったことで知名度が向上して人気が出た。1号車は濱本繁美社長が所有し、実体験を基にアピール。ウッド調の外装とアルミホイールの形状が時代を感じさせる。

主要諸元 ●ベース車：100系ハイエーススーパーロング ●全長×全幅×全高：4490×1690×2225mm
●乗車定員：7人／就寝人数：3人 ●発売当時参考価格：298万円



これまでの国産キャンピングカーの歴史を見ると、キャブコンは各社とも伝統のある定番車があり、内外装をFMCするパターンが多い。対するバンコンは、古くから存在している定番モデルは少ない。これはキャブコンとは製造過程が異なり、さまざまなタイプを提案してユーザーを取り込みたいという理由で、より多くの仕様が短い周期で製造されている。そんな国産バンコン市場のなかでも、初代の発売からFMCされることなく、MCを繰り返しているのがピークルのフューチャーなのだ。

初代がリリースされたのは'89年。それまではE24系のキャラバン（ホームミー）ベースのバンコンをメインとしていたが、100系ハイエースの誕生に合わせてスーパーロングを使って架装したのがきっかけ。そのときに採用されたのが、現在でもほぼ変わらないレイアウト。

ダイネットは、反転したセカンドシートに横座りの対面シートを組み合わせ。後部右側にキッチンを備えるが、タイヤハウスの上を覆う形でシンクと冷蔵庫を配置。さらにキャビネット内にテレビを組み込んだ。この効率のいい架装が空間に余裕を持たせ、ゆったりと過ごせるモデ

1993年 使いやすい内装が高い支持

ベース車のMCに合わせて内装の質感が向上

この年にベース車が大幅にMCされ、フロントマスクの変更やディーゼルエンジンの高出力化など、後の販売状況に多大な影響を及ぼすほど改善された。それと同時に、壁面に張り込まれる室内トリムの質感向上とシート生地の変更を実施。



●車両後部の右側にシンクと冷蔵庫、左側にはキャビネットを配置。つき板仕上げの家具と木目調のクッションフロアも特徴だ

主要諸元

- ベース車：100系ハイエーススーパーロング
- 全長×全幅×全高：4490×1690×2220mm
- 乗車定員：9人／就寝人数：3人
- 発売当時参考価格：380万円



2006年 200系の発売と同時に採用

主要諸元

- ベース車：200系ハイエーススーパーロング特装
- 全長×全幅×全高：5380×1880×2285mm
- 乗車定員：8人／就寝人数：3人+1人
- 発売当時参考価格：411万円～



●室内幅をフル活用したリヤベッドで、長さは約1650mm、幅も約700mmあった。成人男性も寝られるサイズを実現し、マットの取り外しも可能だった



このMCで後部空間の使い方を一新

キッチンには右側にシンク、反対側に冷蔵庫とキャビネットを設置。最後部は左右ともボックス形状にして、ベッドを設置できるようにした。内装も一新され、

シート生地は細かいドット模様のブラウン系になった。装備の進化もいち早く採用していて、埋め込みテレビデオは廃止され液晶テレビになっている。

ルとして頭角を現した。さらに特徴となっているのがアーチ形の仕切り板。この当時はオーディオを充実させるのがはやっており、4スピーカーが一般的でもあった。そこで考えられたのが仕切り板を利用してのリヤスピーカーの装着だった。後に、ここにカーテンを付けることで2ルーム的に使えることがポイントとなり、さらに人気が出た。また、この仕切り板の利用方法の1つとして、過去のMCではテレビデオの埋め込み加工をしたこともある。

フューチャーが支持され続ける理由は、内装の仕上げのよさにもある。これはビークルの全車にいえるのだが、質のいいシート生地や内装材を使い見た目と質感にこだわるほか、つき板仕上げの家具は表面の木目がつながるように、異なる箇所であっても一体感が出るように意識して仕上げる。モール類もトータル的な配色に独自の工夫がされており、多くのユーザーから評価されている。

これまでに、100系ハイエースベースでも500台を超え、その後は200系の発売直後から使い続け15年以上が経過したことを考えると、4けたの販売台数であろうと考えられる。まさに伝統のモデルなのだ。

THE FUTURE OF VANCON

バンコンのこれから……

マイナーチェンジの進化を探る

2011年 使い勝手を高めた作り込み

モノトーン調の仕上げで 高級なイメージが向上

初代同様に右側はシンクのみを設定だが、後部に取り外せる調理台を設けた。最後部の作りも改良され2段ベッドになった。上段は窓部分まで利用するサイズで1720mmの長さがある。ベッドマットは右側にまとめられるのでフロアも有効活用できる。シート生地がグレーになり、車内全体がシックな印象で構成されている。



●外せるベッドマットは右側にまとめられる。簡単な操作でフロアが利用できる。セカンドシート後部まで使えるので長尺物でも余裕だ



主要諸元

- ベース車：200系ハイエーススーパーロング特装 ●全長×全幅×全高：5380×1880×2285mm
- 乗車定員：8人／就寝人数：3人+1人 ●発売当時参考価格：458万3250円

2015年 現行車はシック&エレガント



はっきりとした 色使いで差別化を図る

3代目と同じ作り込みだが、室内トーンを大幅に変更。その1つがダーク系だったシート生地を、思い切って白色にした（他色も選択可）。そのため、よりモノトーン色が強調され高級感が向上。照明器具はLEDになり明るさも十分。スポットライトとラインLEDの使い方がうまく、独特なムードを演出する。



●2段ベッドと荷室の確保を実現した個性的な作り。冷蔵庫上のキャビネットはワードローブとしても使える大きさとなっている

主要諸元

- ベース車：200系ハイエースバンDXスーパーロングワイドボディハイルーフ
- 全長×全幅×全高：5380×1880×2285mm
- 乗車定員：10人／就寝人数：3人+2人
- 発売当時参考価格：432万7800円

ユーザーからのフィードバックでつねに進化していく



ビークル 藤森毅行さん

200系ハイエースになってから2回マイナーチェンジを実施しています。その際、シンクやリヤベッドの作り込みが変わったのは、ユーザーの意見を反映した形です。より使いやすく、調理台としても機能します。家具に関しては、元からチーク材を使うことを前提としていますから、その際にどんなトーンが最適か考えた結果です。50種類以上のトリムやシート生地から、組み合わせの配色を考えています。



●リヤ2段ベッドは子供用となっているが、上段は大人でも利用可能なサイズ。ダイネット部は開放的で4～5人がゆったりできる